

はじめに

平成 20 年度宮城県環境白書をここに公表します。

少子高齢化による生産年齢人口の減少等、社会情勢が大きく変化する中で、本県は、みやぎが元気になり、県民が豊かさを実感できる「富県宮城」の実現を目指し、その具体化に向けた「宮城の将来ビジョン」を策定しました。このビジョンでは、きたるべき総人口減少時代を展望し、将来のあるべき姿や目標を県民の皆様と共有し、その実現に向けて県が優先して取り組むべき施策を明らかにしております。

このような中、自動車、半導体関連の大規模な工場の移転・立地が次々と決定されるとともに、今年 10 月からは仙台・宮城デスティネーションキャンペーンが展開され、多くの方々に本県を訪れていただくなど、「富県宮城」の実現に向けた動きは、着実に進展してきています。

一方、今日の環境問題は、廃棄物排出量の増大や閉鎖性水域の水質汚濁、身近な生物生息環境の悪化などといった地域の問題から、地球温暖化など地球規模の問題にまで広がりを見せています。

特に、地球環境問題については、今年 7 月に、北海道洞爺湖町において、地球温暖化を主要テーマとするサミットが開催されるなど、新聞やテレビなどマスメディアで毎日のように報じられており、わたしたち一人ひとりの大きな関心事ともなっています。今年からは、地球温暖化対策に関する国際的な約束である京都議定書の第一約束期間に入り、目標を達成するための具体的で確実な取組が求められているほか、京都議定書後の仕組みづくりについての検討が国内外で活発に行われています。

本県では現在、平成 18 年度を初年度とする環境基本計画のもと、持続可能な社会の構築に向けた 10 年後の将来像と県の施策の方向性を見据えながら、県民の方々一人ひとりが、日々の暮らしの中で強く「環境」を意識することができるようさまざまな施策を推進しているところです。

この環境白書は、平成 19 年度における宮城県の環境の状況及び県が実施した環境施策について取りまとめたものです。この冊子が宮城の環境について考えるきっかけとなり、宮城の環境に対する関心が一層高まり、理解が深まりますことを心より願っております。

平成 20 年 12 月

宮城県知事 村 井 嘉 浩